

会 議 議 事 録

				記録者 廃棄物対策G 副主幹 田中宇宙		
供 覧	部 長	次 長	参 事	課 長	課長補佐 ・ 係長	グループ員
件 名	令和7年度 第3回 龍ヶ崎市廃棄物減量等推進審議会					
日 時	令和8年3月24日(火) 午後1時30分から午後3時30分					
場 所	龍ヶ崎市役所本庁舎5階 第1委員会室					
主 催 者	都市整備部生活環境課					
出 席 者	<p>【委 員】</p> <p>高口央、田崎智宏、加藤勉、大竹昇、酒井孝、佐藤昌一、 所洋子、石渡友希、中村茂、油原正明、田島俊二、山崎進、 菅野逸美、相田健二、披田信一郎、中山和枝</p> <p>【事務局】</p> <p>橘原部長、小杉参事、竹中課長補佐、原係長、加藤主幹、記録者</p>					
欠 席 者	<p>【委 員】</p> <p>宮本浩貴、尾口寿章、安井城幸</p>					
内 容	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p>(1) 令和7年度ごみ処理実績と令和8年度の重点取組について</p> <p>(2) 「龍ヶ崎市食品ロス削減推進計画」の策定について</p> <p>(3) その他</p> <p>4 閉 会</p>					
事務局 (竹中)	<p>それでは、只今から令和7年度第3回龍ヶ崎市廃棄物減量等推進審議会 を開会いたします。</p> <p>開会にあたりまして、高口会長よりご挨拶をお願いいたします。</p>					
高口会長	<p>本日はお忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。</p> <p>本日の協議事項につきましては、令和7年度ごみ処理実績と令和8年度 の重点取組についてと龍ヶ崎市食品ロス削減推進計画の策定についてで す。</p> <p>円滑な会議運営にご協力くださいますよう、どうぞお願いいたします。</p>					

<p>事務局 (竹中)</p>	<p>高口会長ありがとうございました。</p> <p>ここで、議事に入ります前に事務局より報告をさせていただきます。</p> <p>本日、宮本浩貴委員、尾口寿明委員、安井城幸委員は所用により欠席でございます。</p> <p>また、生活環境課長の廣田でございますが都合により本日欠席となります。</p> <p>続きまして皆様の席に配置しておりますマイクの使用方法を説明させていただきます。</p> <p>発言をされます際はマイクの下側のボタンを押していただいて、赤いランプが点灯してからお話しください。</p> <p>また、発言が終了しましたら、再度ボタンを押して切断をお願いします。切断されませんと次の方が使用できませんのでご注意ください。よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、ここからの議事の進行につきましては、議長である高口会長をお願いしたいと思います。</p>
<p>高口会長</p>	<p>議事に入ります前に、本日の委員の出席者数を確認させていただきます。</p> <p>委員総数が19名のうち、出席委員が16名、欠席委員が3名となっております。</p> <p>出席委員が過半数に達しておりますので、「龍ヶ崎市廃棄物の処理及び再生利用の促進に関する条例」第36条第3項の規定により、本会議が成立したことを報告いたします。</p> <p>それでは、始めたいと思います。</p> <p>まず、会議録の作成に当たりましては、発言内容・発言者名を記載するものといたします。</p> <p>また、事務局で作成した会議録につきましては、一度、委員の皆様へ会議録を郵送又はメールし、確認いただいた後、これから決定させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。まず、会議録署名人の選任を行いたいと思います。署名人につきましては私の方から指名させていただきます。第3回審議会につきましては、佐藤昌一委員、所洋子委員をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">—————委員からの異議等なし————— (佐藤委員、所委員 了承)</p> <p>今回の会議録が作成されましたら内容を確認いただき、署名をお願いしますので、ご協力をお願いいたします。</p> <p>次に、審議中各委員が発言する場合には挙手をお願いいたします。指名</p>

	<p>させていただいた後にご発言をお願いします。</p> <p>では、会議次第に従いまして議事を進行して参ります。</p> <p>議事（1）令和7年度ごみ処理実績及び令和8年度の重点取組について、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
事務局 （田中）	<p>議事（1）資料「令和7年度ごみ処理実績及び令和8年度の重点取組について」に基づき、説明</p>
高口会長	<p>事務局から令和7年度2月末までのごみ処理実績と令和8年度の重点取組についての報告をいただきました。この件につきまして委員の皆様からご意見、ご質問等があればお願いします。</p>
中村委員	<p>ごみの総排出量についてですが、事業系のごみが増えているようです。また、粗大ごみがかかなり増えているようなんですけれども、これは、特異的に事業所が多く排出しているといった状況があるのでしょうか。</p>
事務局 （田中）	<p>こちらのグラフですが、わかりづらくて大変恐縮なのですが、1ページに記載しているグラフについてご説明いたします。</p> <p>左側のごみ総排出量の推移については、水色が家庭系ごみ、緑色が資源ごみ、ピンク色が事業系ごみを示しているグラフになっております。</p> <p>真ん中のグラフは、左側の水色の家庭系ごみの内訳を示したものになっております。</p> <p>したがって、事業系ごみが増えているという結果と粗大ごみが増えているということは、今回のグラフでは一致しないものになっております。</p> <p>事業系ごみが増えている要因といたしましては、令和2年度コロナ禍以降、これまでごみ総排出量としては減少傾向が続いていたのですが、事業活動の回復などから事業系ごみがやや増加傾向にあり、その傾向が続いた結果、令和7年度においても前年度に比べて事業系ごみが増加したという結果になっております。</p>
田島委員	<p>8ページになりますが、令和8年度の重点取り組みの課題1のところにキエーロ普及講座の実施とあります。</p> <p>キエーロというと家庭用のコンポストというイメージですが、そういう意味でしょうか。</p> <p>その補助制度が以前ありましたよね。今はないということで、普及促進したいのに何でこれを無くしたんでしょうか。その辺の経緯を教えてくださいたいと思います。</p>
事務局 （田中）	<p>まずキエーロについてですが、コンポストと同様に生ごみ減量につながるものではありません。</p> <p>コンポストはあくまで堆肥を作ることに繋がるものですが、キエーロについては、黒土などを入れた箱の中に生ごみを入れると、微生物の働きで</p>

	<p>完全に分解をするものとなっております。</p> <p>ただ、同様に生ごみを減量させるという観点から、キエーロも補助の対象としておりました。</p> <p>こちらにつきましては令和5年度まで補助金の制度を設けてきたのですが、利用される方の広がりが効果的に広がっていかない部分もあり、補助金の効果の見直しの中で廃止となりました。</p> <p>ただ、担当部局としては、生ごみの減量については補助金の廃止を受けても推進は当然していかなければならないものとして認識しておりますので、残念ながら補助金自体はなくなってしまいました。キエーロについてはご自身でも作成できるというメリットもありますので、そういったところから今回取り組みとして挙げさせていただいた形になります。</p>
田島委員	<p>納得できないんですね。</p> <p>所管としては、要は増やしたいわけですね。これは補助対象だったわけですね。</p> <p>令和8年度の重点取り組みとして増やしたいと言っているのに、残念ながら補助制度が無くなりましたというのはおかしい。</p> <p>補助制度を復活すればいいじゃないですか。そういうふうに努力すべきではないでしょうか。</p> <p>ただでさえ、普及しにくいから講座とかをやって重点取り組みとして実施しようとしているのに、プラス面とマイナス面を重ねあわせて説明されても、何がやりたいのかよく分からない。</p> <p>補助制度がないというのは矛盾しているのではないかとことです。これは意見です。</p>
事務局 (田中)	<p>事務局としては当然、より普及促進をしていくということが最も目指すところではございますが、現在できる手段として、一度廃止となっているものでございますので、直ちに再度の復活というわけではなく、別の手段でまずは生ごみの減量に取り組んでいく必要があるというふうに認識しております。</p>
田崎委員	<p>今の点について、私も生ごみの減量化を進めるべきという考えなのですが、田島さんとは少し違う意見です。</p> <p>なぜかといいますと、これまで生ごみのコンポストに対して補助金を出していたと言っても、利用者の数がかなり限られていたんですね。</p> <p>ですので、対策としての効率性という観点からはあまり高くないのではないかとこの気持ちがあります。</p> <p>それであれば、しっかりと生ごみを分別してリサイクルするような、もっと大きな枠組みで、市民全体が活用できるような取り組みをした方がいいのではないかとこの意見を私自身は持っております。</p> <p>ただ、なかなか生ごみの分別というのも新たに取り組むというのが動か</p>

	<p>ない状況で、結局有効な施策を生ごみについては取れないですときているという状況だと思っております。</p> <p>どういう方向性にしろ、何をしたらいいのかということ、我々の中でしっかりと議論していくことが大切かなと思っております。</p>
田島委員	<p>でも補助金があっても良いんじゃないですか。今まで利用されてきているわけでしょ。</p> <p>普及講座をやってそこまで増えると思いますか。私はあまり信じられない。これは意見です。あとは行政のほうで考えてください。</p> <p>それから、この資料全体に関わることなんですけど、前年度実績と今年度2月までを比較している箇所が結構多いですね。</p> <p>増減が書いてありますけど、本当に比較するのであれば、まだ2月末までしか出ないのであれば、3月まで待ってその次の会議に出すべきだと思います。</p> <p>どうしても今日出したいのであれば、前年度も2月末時点で比較すべきだと思います。</p> <p>そうでないと、1か月少ないからマイナスになってしまう。</p> <p>なぜ、こういう資料の作り方をしているのかちょっと不思議でしょうがないんですが、その辺はこれから考えていただきたいんですけど、こういう形でこれまでもやってきたんでしょうか。</p> <p>ここまで立派な資料を作っていたいただいていて申し訳ないんですが。</p>
事務局 (田中)	<p>おっしゃる通り、2月末時点で比較すべきというご意見はごもっともかと思えます。</p> <p>ただ今回提示させていただいたのは、あくまで生ごみに着目していただくために、参考として令和7年度の令和8年2月末時点の数字を取り扱わせていただいたというところがござります。</p> <p>次年度以降につきましては、比較時期を統一して比較できるようにというご意見はごもっともだと思いますので、次回以降はその点は改善させていただきますと思います。</p>
田島委員	<p>私は決算同士の比較でいいと思いますよ。</p> <p>少しでも早く皆さんにお見せしたいというのはわかるんですけど、せっかくの苦勞が台無しになってしまいます。</p> <p>年度末まで待って、きちんと揃った形で出していただければ明確になってちゃんとした資料になると思います。</p>
高口会長	<p>資料の作りこみといった点では、事務局でもお認めになっておりますし、確かにご指摘の通りだと思いますが、今回は新年度に向けての方向性についても、ここでご検討いただきたいということで、2月時点でのご報</p>

	<p>告をいただいております。</p> <p>大きく増加するものではないということでご確認いただければいいのかなと思っております。</p> <p>披田委員の方から何かご意見ありますでしょうか。</p>
<p>披田委員</p>	<p>今、データの比較の話については田島さんのおっしゃることはあると思います。</p> <p>実績報告書の方で4年分ぐらいは出されているので、補足すれば分からなくはないんですけども、年次だけで直近のものを比べるのであれば、想定で3月分を今までの実績に足して、見込額で出すというのは年度という感覚ではあり得るかなとは思いますが。</p> <p>それはそれとして、先ほど田崎委員からも出た、生ごみが問題だということで、キエー口を普及させようと、具体的な取り組みを進めようということだと思っています。</p> <p>ごみ質分析の方でそれなりの量があるという背景を踏まえてはいるんですが、もう少し大きい視点でこの審議会も相当昔からやってきて、ずっと大きな課題でやってきたと思うんですね。</p> <p>補助金のこともあるんですけども、実際には1つのやり方で生ごみ処理のためのシステムというか、ハードの装置も含めておいて、やれば決定的になるかということ、それなりの期間でできたりする例もあります。</p> <p>茨城県南では土浦などがそれを引き受ける民間の処理施設があって、相当な量をしっかりやっているという例もありますけれども、龍ヶ崎なんかではいろんな試みをしたけれども、なかなか見つけにくいということは分かった上でなんです、龍ヶ崎市の廃棄物行政の中で、生ごみを総合的・体系的にどうしようとしているのかという方針が全然見えていないというか、補助金を財政削減の観点からなくした。それはわかるんですけども、それならそれで代わりにどうするのか、そして今後どうしていくのか。</p> <p>ごみ処理施設の今後の問題というのも、今日のテーマではないかもしれないけれど、焼却万能主義的なものの中で見込めばいいのか、資源率という点で分別するという観点になっていきますけれども、焼却以外の方法でも様々な、バイオマスに転換してやるとかいろんな手法が今ある中で、全体をどうしようとしているのか、その中で生ごみ処理をどうしようとしているのか。</p> <p>一挙にはできないのでとりあえずはそれぞれのところで協力してもらってやれる様々な取り組みというのが現状だと思うんですが、それならそれをはっきりと打ち出すこと。</p> <p>要するに今でも家庭のそれぞれで戸建住宅など土のあるところでは、生ごみの多くは特別な処理をしなくても穴を掘ってそこへ埋めるというのが一番費用もかからず、面倒くさいかもしれませんが、そうやられている</p>

	<p>方はやられている。</p> <p>ただ、それを全戸に普及させるとなると、集合住宅などではやりたくても難しいとか、電気式生ごみ処理機を補助金があったときには活用して買ったこともあるし、ただあれも買ったは良いけどある程度使ってそのまま終わってしまったりということも様々にあるんですが、いろんな手法でいろんな形で、全体の家庭の多くがいろんなことを少しはしている、それをもっと広げていく。</p> <p>その中にキエー口の普及も当然あってしかるべきなんですけど、多分その全体をどうしようとしているのかが見えないので、田島委員がおっしゃるように補助金はどうなったんだとか、出さないならどうしようとしているのかというところが一番見えない。</p> <p>そういう意味ではちょっとどう考えていらっしゃるのか、ここ1年2年の話だけじゃなくて、先輩たちがやってきているいろんなモデルケースの周知をしてやった試みもあるわけで、そういう経験も含めて、かつ今後も含めてどうしようとしているのか、ちょっとお考えをお聞きしたいと思います。以上です。</p>
大竹委員	<p>披田委員がおっしゃるように生ごみはコンポストで私がもう2つ持ってやっているんですけど、結局家庭菜園をやっているから、そちらの堆肥にしているんですよ。</p> <p>今皆さんのお話を聞いていると、場合によっては長寿会の皆さんなどは空き地がかなり出てきているんですよ。</p> <p>行政と地主さんとの話の中でそういうふうになれば、龍ヶ崎全体で花いっぱい運動をしましょうよ、言わばそういう形で長寿会と連携をとって、その空き地などで堆肥にして、それでお花を育てる。</p> <p>場合によってはスーパーさんと提携する、そういうスーパーさんなんかでも花壇があったり、そういった取り組みがあったりするんですよ。</p> <p>そこに提携するとお花を提供することによって経済の循環も生まれてくるので、そういうところを踏まえて生ごみを堆肥化したら、それをどう活用するんだという出口論まで考えていくと、なかなか面白い話になるというような形で、アイデアだけ申し上げます。以上です。</p>
事務局 (田中)	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>最終的なゴール地点について申し上げますと、なかなか生ごみの資源化処理システムというものも、龍ヶ崎市にとってより良いものがあるかどうかというところも、正直なところ、現状では十分に研究できていない状況だと思っております。</p> <p>その上で、生ごみ自体は現状において、場合によっては資源化というところもあるのかなとは考えております。</p> <p>現在龍ヶ崎市の立ち位置としては、プラスチックの分別収集も行ってい</p>

	<p>ないような状態で、プラスチックの分別収集と並行してどういうふうに将来的に運用していくんだというところの話もなかなかまとまっていない状況になりますので、まずは減量をというところの方針かなとは思いますが。</p>
<p>披田委員</p>	<p>今、大竹さんからご提案のあったようなことを含めて、ある意味で大きいシステムを作れば100%それで解決するわけではなくて、いろんなところでいろんな手法で、ごみとして出さない形でやりましょうということはどう広げるかという、市民だけにお任せで、やる人がやる、やらない人はほったらかしというままでは、行政の政策としては不十分なので、補助金さえ出せばというのは結構よくやられる手法で、龍ヶ崎もやってきて、それが悪かったわけじゃないんですけども、やっぱりそれだけでは解決しない。</p> <p>一方でお金も出さないけど、市民の運動として、いろんなところでみんなで行えるような仕掛けをするというのもある。ただ、それならそれで、音頭をとって、やっぱり本当にみんながそういうふうにしよという気にさせるための、ソフト的な事業としての仕掛けづくりが必要なんですね。</p> <p>龍ヶ崎はもう30年ぐらい前の旧城取清掃工場の時代のダイオキシンの問題だとか、ごみ処理がもうパンクするという中で、とにかくごみを減らさなくちゃということ而努力して、女性も含めて、この審議会自体は結構市民公募の枠が他の審議会に比べて多い。昔30何人ぐらいでそういう協議会みたいに作ったときにはほとんどが女性の、各地域の人たちに来てもらって、そういうある意味ではみんなで何とかしようということをしてきて、それなりにいろいろ絞り込んで、生ごみだけではないんですけど、やってきた。だけど何か、中だるみというか、あまりそれで降されていなくて、特にこの生ごみはやっぱりいろいろ試してはみたけど、あまり決定打が見つからないという中で、政策としてはほったらかしになってしまっているという感じがあるんですよ。</p> <p>特に今日のこの件で言えば、次の食品ロス削減推進計画を作るのも、国が法まで作ったからやらざるを得ないからみたいな感じがあるんですが、そもそもこれもセットに含めて、こういう有機物を簡単にごみにしないでどうするのかという総合的な話の一環としてあって意味があると思うんですね。</p> <p>だからその意味では、現時点でそこまでの対応ができていないので、ぜひそこをやる。市がどんなにやれと言ったって、やっぱり市民が動かなきゃいけないんで、それをいろんな地域や住居形態などによって一律にはしにくいというのが龍ヶ崎の場合、経験的にわかってきているような気がするんで、必要な部分は、例えば補助金の復活なんかも含めていろんな手法でやるということ、ちゃんと総合政策として考えてもらいたいというふうに、先ほどのご答弁も含めて思います。以上です。</p>

山崎委員	<p>4 ページの左下のリユース事業の周知についてお伺いいたします。</p> <p>2 月末時点で利用者が 114 名、計 225 点の申し込み実績があったということですが、一般的にリユース事業については、申し込んで複数のリサイクルショップが一括査定して、一番高いところに売れるというのが一般的な流れかと思うんですけど、龍ヶ崎市のこの制度については、こういった事業を展開しているのかちょっとお尋ねしたいのですが。</p>
事務局 (田中)	<p>そちらのリユース事業についてですが、山崎委員おっしゃる通り、一般的なリユースの取り組みと同様でして、あくまでこのリユース、「おいくら」というネットのプラットフォームを展開されているマーケットエンタープライズさんという会社と協定を結んで、ネットを介して出品をして査定を受けることができるというものになっております。</p> <p>特筆して何か大きく龍ヶ崎市独自の方法を選択しているというわけではなく、あくまでごみの発生抑制という観点から協定を締結して、周知を行っているというものになります。</p>
山崎委員	<p>そうしますと、一般の方は不用品があると直接リサイクルショップに持ち込んだりすると思うんですね。</p> <p>市のこの制度を使うメリットというのは何かありますか。</p>
事務局 (田中)	<p>この協定を締結するにあたっての一番のポイントとしては、リサイクルショップに持ち込むことが困難な大型家電や家具といった大型ごみ、また高齢者の方がご自宅の外に運び出すことができないといったケースに対してスポットを当てている部分もありまして、こちらの「おいくら」に加盟している店舗によっては、ご自宅の中から運び出しをして買い取りをしますというような事業者も多数いらっしゃるというところがありましたので、そういったところが大きなポイントかなというふうに考えております。</p>
山崎委員	<p>申し込みの仕方については、市役所の方にこういうものをお願いしたいということで、写真か何かを添付してやるような形になりますか。</p>
事務局 (田中)	<p>方法としては市が間に入らない形になっております。</p> <p>あくまでマーケットエンタープライズさんが運営されている「おいくら」というページに直接アクセスいただいて、出品なり取引のやりとりをしていただくという形になっております。</p>
山崎委員	<p>つまり市としては「おいくら」と提携はするけど、直接関わっていないという形なんですね。</p>
事務局 (田中)	<p>はい。そうなります。</p>
山崎委員	<p>わかりました。</p>

<p>披田委員</p>	<p>今山崎委員がご指摘されたこのリユース事業について、私もごみの処理の問題には関心を持っていたつもりなんですが、知らなかったんですよ。</p> <p>ごみについて市民に対して毎年発行しているごみの出し方のチラシを見直したら、確かに触れてはあるんですね。</p> <p>だから何もしていないわけじゃないんですが、りゅうほ一などでどのぐらい周知されているのかが全然分からない。</p> <p>先ほどの短いご答弁の中で協定を結んで市の事業とされているということで、確かにここにある QR コードをとると龍ヶ崎市と連携していると表記のあるこの「おいくら」に繋がるんですね。</p> <p>これは要するに一応民間企業がやっているものですよ。</p> <p>市としてやっているんだから、ここの業者さんがどうかということではないんですが、いろいろすでに民間があつて、いろんな、例えば今本当に電話なんかで、または訪問されていろんなものをリサイクルする、買い取るといった、ちょっと対応に困るようなケースもある中で、市が提携して協定を結んでいるということは、この業者さんについて一定の信用性を認めているということだろうと思うんですが、であるならばそのようなものとして、きちんと市民に対しての周知がされているかというのがちょっと疑わしいと思います。</p> <p>そういう意味では、いつからこれが市の事業となり、例えば議会などでも何らかの形で龍ヶ崎市の事業として説明があつたのか、広報などでいつからどのように周知されているのか、ちょっとこういう場にながら知らないし、山崎委員もご存じなかったとおっしゃっていたと思う。</p> <p>皆さんどうか分かりませんが、ちょっと変な事業という言い方は申し訳ないんですが、この取組が悪いのではなくて、市として良いことなだけけれど、何か丸投げしてて、やってはいますけれども、どれだけみんながわかっているかよくわからないという意味では、ちょっと気になるんですが、いかがですか。</p>
<p>田崎委員</p>	<p>披田委員の質問にお答えいただく前に、まず国全体のリユースの状況を少しお話させていただきたいと思います。</p> <p>実は本日、環境省の方からリユースロードマップというものが公表されて、その策定に関わった立場から少し技術的な観点でお話させていただければと思います。</p> <p>まずリユースショップ等の活用率が日本全国で見ても、市民の中で過去1年使ったことがないという人が実は6割もいるということで、実は自治体のところに集まってくる前に、まだまだ使えるものがあるだろうということで、環境省の方は取り組みを進めようとしています。</p> <p>国としても今回のロードマップの目標では、日本全国で600自治体が事業者などと協定を結んで、ごみも減らして、かつリユースをしっかりとっていくという動きがあります。</p>

	<p>この背景は、先ほど言ったようにしっかりとごみを減らしていくということと、一方で押し買いといった不適切な取引なども問題として起きているので、ある程度区市町村がこういったリユース事業者と連携して、市民に対してこういった事業者がいますよという情報提供をして、リユースをどんどん進めようという時期に来ていると思っています。</p> <p>ですので、ある程度その動きに沿って、率先的に龍ヶ崎でも進めていただいているものだというふうに認識しております。</p>
高口会長	では、事務局よりお願いします。
事務局 (田中)	<p>まず「おいくら」との協定を締結したのは令和6年1月になります。</p> <p>一方、市民への周知に対しては、令和6年4月頃だったかと思いますが、広報紙等で締結をお知らせし、利用をお願いするような記事を掲載しております。</p> <p>その他、ホームページなどにも掲載をさせていただいておまして、ごみの出し方チラシについては毎年発行しているのですが、令和6年度のものからはこちらの内容も同様に掲載していたかと思しますので、そういった方法で周知を図っているような状況です。</p>
披田委員	<p>田崎さんからのお話も含めて、理解できる必要な分野だとは思いますが、ただちょっと龍ヶ崎市として2年前からやっているという割には、例えばこのチラシの表示なんかでも、分別のチラシ自体が壁などに貼って利用いただくような性格のものだから、限度はあるのかもしれませんが、ちょっとこれだけ読んでよく分からないという部分があって、りゅうほー一には載せたとおっしゃられているんですけども、もう1つ例えば龍ヶ崎では粗大ごみの収集があって、これは市単独ではないんですけども組合の方で年1回、環境フェアというのをやめてしまったという問題もあるんですけどね。そこで、粗大ごみで使えそうなものを置いておいて、そこをみんなに提供するということが結構たくさんの方が集まるということをやっていたんですよ。</p> <p>これも2年前から環境フェアが、私も市民環境会議などにも関わったりしてきている中で、市民も自発的にいろいろしている中で、突然なくなって、それに伴って結果としてそういう集まったものを提供するという場とかチャンスが消えてしまったということです。</p> <p>だから、いろんな少しはやってきたり、新しい試みをこういう形で始めたというのも良いんだけど、やっぱりちょっと全体として、生ごみの話もそうなんですけど、このリユースについても、やっぱり結構力を入れて大々的に取り組みをして、市が直営で何から何までやれという話ではなくて、こういう安心できる業者との連携であれば良いんですけど、やっぱりそれを宣伝などで、ずっと定着するまで関わるという意味で本当に政策・事業としてちゃんとやるということが残念ながらなくて、ちょっと</p>

	<p>はやるけどそのままというか、この2年間でここに出ている利用者114名225点というのは多いか少ないかは評価をどう考えるかですけど、ゼロじゃないしひと桁でもないんですけれども、ただやっぱりどのぐらい知られているかという意味では、もう少し話題になっても良いと思う。</p> <p>そのあたりをやっぱりちょっとどう考えていらっしゃるか。</p> <p>今後のこととして、せっかくの取り組みをちゃんとやってもらいましょうという話になるんですが、廃棄物行政全体の市の取り組みの方が、忙しすぎてという気もするんですが、ただちょっと別の話ですけど、忙しい生活環境課の中で、廃棄物対策課を4月から独立させるというような話もあって、小杉さんが次の課長になられるみたいだから、そういう中でもしっかりしてもらいたいなという話でちょっとまとめますが、やっぱりそのリユースの政策なんかについても、どのぐらい市民に周知されているのか、今回の令和8年度にやろうとしていることが何かちょっとバラバラで、トータルとして本当に重点を置いて、本気でこのことをやるというところが見えにくいという気がしております。以上です。</p>
高口会長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>何かコメントはございますか。</p>
事務局 (田中)	<p>ご指摘いただいたところはその通りかなと思いました。</p> <p>各取り組みは進めておりますが、全体ではなく、あくまでも点でしか今のところそれができていないというところは本当におっしゃる通りかなとは思いますが。</p> <p>少なくとも生ごみに関しては、食品ロス削減推進計画を策定するなどして体系的なものを、そういった反省も踏まえて整備できればと考えておりますので、来年度もここに挙げた1つひとつの取り組み、施策などを取り上げさせていただきますので、様々なご意見をいただければと思います。</p>
高口会長	<p>皆さん、はい、ありがとうございます。</p> <p>ではですね、まだご意見等あるかとは思いますが、次の議事についても食品ロス削減推進計画ということで、今話題にもなっておりましたそのことにも関連しますので、2番目の議事に移っていただいて、その後ご意見をいただければと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>では事務局の方お願いいたします。</p>
事務局 (加藤)	<p>議事(2)資料「龍ヶ崎市食品ロス削減推進計画の策定について」に基づき、説明</p>
田島委員	<p>1ページのところなんですけど、国では食品ロス削減推進法は令和元年10月に施行されたわけですね。</p> <p>施行するにあたり、2030年までに2000年比で食品ロスを半減するというものだと思いますけれども、随分龍ヶ崎市は遅れてスタートするんじゃないかと</p>

	<p>ないでしょうか。なぜそうってしまったのか。</p> <p>それで2030年までに本当に半減ができるのか、ここまで遅れてしまっていて。ちょっとその辺のお考えをお聞かせください。</p> <p>それと2ページのところで、計画期間を2年間とする理由ということで下に4つ挙げてありますが、1点目のごみ処理基本計画との整合性ぐらいは分かるんですけど、実効性の確保とかPDCAサイクルとの関連性が何でそうなるのかということで、関連性がわかりませんので、ちょっとそのご説明をお願いします。とりあえず2つ。</p>
事務局 (加藤)	<p>確かに令和元年に制定されているにも関わらず、なぜ今なんだということについてですが、茨城県の方の動きとしても、県の計画が成立したのが令和2年度であり、そういった県の動きを踏まえながら、かつ近隣自治体の状況を踏まえた上で、今回取り組みとして食品ロス削減推進計画の策定に着手することとしたところではあるんですけども、そういった近隣自治体の状況などを踏まえた結果、今になってしまったのかなというところではあります。</p> <p>計画期間を2年間とする理由としましては、やはりこういった計画を龍ヶ崎市として立てるにあたって、初めから長期的な期間で設けてしまうことで、施策の効果などの見直しができないというところも含めて、まずは短期間として2年間としようということで今のところ案として出ている状況です。</p> <p>ただ、こちらご案内している資料につきましてはあくまでも計画策定の案を皆様にご確認いただいている状況ではありますので、そういったご意見等を踏まえながら、来年度の策定に向けて進めていければと考えているところでございます。</p>
田島委員	<p>龍ヶ崎市はこれだけでは無いんですよね、相当遅れているものが。</p> <p>他の分野でも同じようなことがあって、私はコミュニティスクール、学校運営委員会の委員もやっていて、そこでも相当他の市町村に比べて相当遅れている。一昨年モデルがスタートしたのかな。</p> <p>それと介護保険の関係である生活支援体制整備事業というのがあって、すけどね。介護予防事業も。これも相当、10年も遅れているということで、何かいろいろなものが後手後手に回っている感じが行政にはします。</p> <p>どうしてそういうふうになるのか。それで済んできたということでしょうけれども。</p> <p>市民の一人としては、非常にやっぱりね、もう少し早く、速やかな行政を進めてほしいと思うんですけど、どうなんですかね。</p>
事務局 (田中)	<p>食品ロス削減推進計画なんですけど、令和元年に法の方で施行されまして、以降ここまで来ているわけなんですけど、龍ヶ崎市として当然法が施行されるに合わせて速やかに策定されるべきものとは思いますが、龍ヶ崎</p>

	<p>市だけが大幅に遅れているというわけでもなく、基本的に食品ロス削減推進計画を茨城県内でも策定しているというふうに公表しているのが5市町村ぐらいになっています。そういった中で、単独の食品ロス削減推進計画を作っている団体としては、そこからさらに少なくなっているような状況でして、今すぐ思い出せる程度だと水戸市が食品ロス削減推進計画を単独で計画策定しているような状況であります。</p> <p>ただそういった状況ではありますが、田島委員がおっしゃる通り、令和元年には法の方で施行されているというところはおっしゃる通りだと思いますので、遅れている状況ではありますが、今後生ごみの減量や食品ロスの削減というところを進めていかなければならない、計画を策定しなければならぬという状況は変わりませんので、令和8年度において策定をできればというふうに考えております。</p>
高口会長	はい。その他いかがでしょう。はい。加藤委員。
加藤委員	<p>ちょっと中身じゃないんですけど、資料のつくり込みで、表記がですね、令和何年度と表示されているものと、西暦表示のものが混在しているので、全部西暦で使うのであれば、括弧して令和何年と併記して表示しておいた方が良いと思います。田島委員からも指摘が出ていたので、今ちょっとネットで茨城県の計画の目標年次がいつなのかと調べていると、時期がはっきりちょっと分からないので、そこは統一していただければと思います。意見としてです。</p>
高口会長	その他いかがでしょうか。
披田委員	<p>取り掛かりが遅いんじゃないかとか、他の市町村もできていないという話はあったんですけど、ちょっとそのことは今更いいんですが、ただちょっとこの資料はそれなりにいろいろ特にアンケート等の分析の中からこういうことができるんじゃないかということをもとめられていらっしゃるということについて評価をしたいと思います。</p> <p>ただアンケートの回答者自体がこのぐらいでということ、参考にはなると思うんですが、ここでモニターとして参加する人は関心も高く、手を挙げてくださって実際に回答してくださるということ、それなりに協力的というか、こういうことを考えている方が多いです。</p> <p>ということ的前提にしなければいけないと思うので、ちょっと全市民というかトータルとしての政策目的でどれだけ削減しようとしているのかというところから見ると次のステップにはちょっと足りないんじゃないかなという気がしております。</p> <p>ちょっとそれから計画年次のお話で、やっぱり2年間だけというのはちょっと、やってみるから、そしてまた見直しも考えるからということはおわかりですけど、ちょっと普通の行政計画では無いですね。</p>

だいたい1年かけてこれを作るという、ここに策定手続きのプロセスを書いてある。そんなに無理して頑張らなくてもいいようにするというか、大体いつもいろんなレベルで確認しながらいかなきゃならないのでこのぐらいかかってしまうんですが、結構な時間をかけてやって、2年間だけの計画でということ自体のアンバランスさをすごく感じます。

なので、やっぱり全体として、計画というものを出す以上はということはあるかもしれないんですが、やっぱりある種の試し感覚という言い方はちょっと無責任かもしれませんが、いろんな意識啓発をやっていこうという、さっきの生ごみもそうですしいろんなことの中で、法の裏付けというのはあるにせよですが、とにかく早くこれを始めてみるのが大事と思うんですけど、その上で、やっぱり2年なり3年なりの期間の中から、もう少し総合的にやっぱりごみの問題だけではないと思うんですけど、もう少し体系的なものにしていくために、とりあえずできる範囲で、要するにこれを作っただけのところ、ある程度の作業はできていると思うんですよ。

それをせいぜい半年ぐらいの間に固めて、2年半なり3年なり、とにかくもう示して、役所だけが何かができる話じゃなくて、結局市民に意識づけて一緒にやってもらわなきゃしょうがないのがこの計画の意味なんで、そういう意味ではとにかく、体を使って動いた方がいいという感じで、この計画期間とスタートの全体のちょっとアンバランスさについては考え直された方がいいかと思います。

それともう1点、数値目標が入っているんですよ。5ページのところに案ではあるけど、基準年度158.2グラムから令和10年度150グラム、8グラム削減ということですね。

ここに何らかの意味があるのですか。

そもそも数値目標を作らない計画というのもまたちょっとあれですが、ただ今こういう数値目標がどのぐらい出せるのか、そもそも基準年度158.2グラムということ自体の統計的な全体的な処理はあるかもしれないんですけど、ちょっとその確かさの問題と、それでちょっとだけでも減らそうというのがここの趣旨で、158.2グラムから8グラム減らすという話なんですけど、ちょっとこれが数値目標として物足りない気がします。

全体として国の目標である半減するというのはできるかどうかと思うと、そのぐらいの意気込みでやるというならば、それなりに大変だけど意味があるんですが、ちょっとそういうことになっていないこと。

それから2番目の食品ロス削減協力店舗数というのはある意味では協力店舗を見つけてやってもらえば、具体的に可能な話なんですけど、龍ヶ崎でちゃんと進められるかどうか、これも今はそういうお願いをしていないから、とりあえず基準年度0はしょうがないとしても、やっぱり20店舗というのはちょっと消極的な数字のような気がします。

	<p>それから3つ目のフードドライブの回収量というのは、これは0kgになっていますけど、龍ヶ崎市役所の1階にも、フードドライブというかフードバンクに出すための入れ物は置いてありますよね。事業自体は社会福祉協議会が市役所も含めて3か所ぐらいで集めて、茨城県内の民間のフードバンク企業に提供しているわけで。</p> <p>だからここで言うフードドライブの回収量というのは、行政が何か別の直営をやるという意味なのか、ちょっとその辺は実態の把握も含めているのかどうか。</p> <p>しかもそれを数値目標として現在ゼロが500kgというところの部分というのが、あまり行政計画として精査されていないという気がします。</p> <p>そういう感想というか、その辺の数値について特にどう考えてどうしようとしているのか、それから計画年度についてというのを質問させていただきます。以上です。</p>
事務局 (田中)	<p>今いただいたご意見なんですけど、数字の根拠がというところですか、フードドライブの回収量というところで、きずなボックスのことかなと思うんですが、確かにその部分については把握はしていたんですが、あくまでもそれとは別に行うものとして想定しているところです。</p> <p>その他にちょっとこの数値的な部分についてはあくまでこの計画策定の走り出す前の段階でご提示させていただいているところもございますので、いろいろなお意見をいただいた中で、その内容についてはちょっと十分に見直しをした上で、令和8年度の計画の中で、今回挙げたものについて今後検討して、修正をする場合には、数値的な根拠をよりしっかり固めた上でご提示させていただければなとは考えております。</p>
披田委員	<p>作成のスケジュールと2年間という計画期間についてはいかがでしょうか。</p>
事務局 (田中)	<p>スケジュールについてはちょっと確かに悠長というところのお話もあるんですけども、作業をしていく上では、これをより早くできるのが望ましいかなとは思いますが、なかなか現実的な作業スケジュールとしてちょっと難しいところもありますし、令和8年度においてもモニター調査の事業を継続して実施する予定がございます。</p> <p>なのでその結果をさらに踏まえて策定をというところも考えておりますので、できればちょっと通年で策定をさせていただければというふうに考えております。</p> <p>2年間の計画期間については、やはり一番大元のごみ処理基本計画との整合性を図るというところが大きい部分になっておりまして、2年間というのはちょっと短いだろうというところのお話もあるかと思うんですが、まずはひとつの取り組みとして、この2年間として、実際にその計画を策定した上で、どのぐらいの取り組みができて、それに対する効果があるの</p>

	<p>かというところを、短い期間の中でありますが検証できればなというところも踏まえて、短い期間にしております。</p>
<p>田崎委員</p>	<p>いくつかコメントしたいと思います。</p> <p>まず今回の調査結果についてですが、しっかりと記録体験型の取り組みをするような形で新しい取組にチャレンジしていただいて、面白い結果が出ていると思っています。</p> <p>これをいかに横に展開できるかということが1つのポイントだと思っていて、あくまでもこの結果を行政自身が発信するというよりも、ここで関わった人たちが他の市民に直接伝える方が多分響くと思うので、そういったことができないかを検討していただければと思います。</p> <p>それから披田さん、それから田島委員からのご指摘もあったように、私も今回のこの計画で出されている内容が、少し弱いんじゃないかなとちょっとと思っています。</p> <p>数値目標として、協力店舗を増やす、フードドライブ回収量を増やすのはゼロからのスタートなので、こんな形でいいと思っているんですけども、1人1日当たりの厨芥類量が158.2グラムから150グラム、5%削減というのは、冒頭の説明であった半減という目標といった野心的なことにはちょっと届かない内容だと思っているんですね。</p> <p>そうすると、もう少し大きく変えようということを議論する場というのを、この計画の中にきちんと入れ込んで取り組んでいく必要があるんじゃないかと思っています。</p> <p>その時に、どんな視点で取り組んだらいいかということ大きく2つあると思うんですね。</p> <p>披田さんから先ほどから総合的にどう考えるかということで、どういう取り組みがあるかということ、日本全国を見ると、ごみ分野に限らず、上手に他の分野の事業と連携しているパターンが比較的上手くいつているような事例があって、先ほど大竹委員からもご指摘のあった、花を栽培するとか、長寿会との連携とかそういったことは、ごみ分野にとどまらないことで、そういったところで地域の活性化にも繋げつつ進めるということで1つの方針だと思うので、そういったことをきちんとその場で議論していただきたいと思うのと、あともう1つはごみ分野はやはり今後財政が厳しくなる中、しっかりと効率性を保ちつつ、かつごみをたくさん出す人からはそれなりの負担を求め、ごみを減らす人にはそれなりのメリットを与えるということで、ちょっと言い方はあまり好きじゃないんですが、いわゆるアメとムチみたいなことはしなくちゃいけないと思います。</p> <p>その場合に、やっぱりごみ有料化の話とかやっぱり出てこないと大きく削減はいかないと思うので、そのような場では、そこまでのことを我々がする必要があるのでということも含めて、主体的に議論をしていただく場</p>

	<p>が多分必要なんだと思っています。 私から以上です。</p>
高口会長	<p>はい。ありがとうございます。では、加藤委員お願いします。</p>
加藤委員	<p>ちょっと皆さんいろいろ議論しているときに、今事務局の説明で、令和6年3月の龍ヶ崎市ごみ処理基本計画との関連性という話をしていると、龍ヶ崎市のごみ処理基本計画って目標年度が令和20年で、令和10年度に一度見直すという計画の中身になっていて、この食品ロスの計画期間というのは令和9年度と令和10年度の2か年で、この内容を例えばごみ処理基本計画の一部見直しに反映させるとなると、この食品ロス削減推進計画の計画年度が令和9年度から10年度という2か年がうまくフィードバックできない計画年次なのかなってちょっと思うんですけど、その辺どう考えていらっしゃるのか。</p>
事務局 (田中)	<p>食品ロス削減推進計画により得られた結果をごみ処理基本計画の見直しに際してフィードバックする、令和9年度・10年度で策定した場合のごみ処理基本計画への反映というか、そういったところをおっしゃっていただいたのかなと思うんですが、確かにその点については、ごみ処理基本計画をベースに計画の数値設定をするというところで考えてはいたんですが、そこの反映するスケジュール感というところまではちょっと今回見えていなかったところもありますので、そういったところも踏まえて2年間の短期にこだわらず、例えばごみ処理基本計画の短期目標が令和10年度なんですが、例えば令和15年度まで、もしくはごみ処理基本計画の見直し時期の少し前の時期まで期間を延長するというところを、ちょっと今後の検討の中でご提示させていただきたいと思います。</p>
加藤委員	<p>そうであるなら、国の計画の目標年次は2030年ですよな。 令和10年は2028年だから、国の計画で、茨城県にも食品ロスの削減に関する計画があって、その計画との整合性と、国・県の計画が見直し時期などのタイミングを見ながら、今回の計画も2年間の短期にこだわらずに、もう少し取り組みの内容含めて、計画期間についても、もう一回再整理して、年次を見直されたらどうかなと思います。</p>
事務局 (田中)	<p>はい。ありがとうございます。 いただいたご意見を踏まえて、計画期間も含めて改めて整理をさせていただきます。</p>
高口会長	<p>はい。ありがとうございます。その他はいかがでしょう。</p>
油原委員	<p>すいません、細かいことで申し訳ございません。基本的な考え方から申しますと、私は個人的にはこういう目標数値は必要ですし、過去の経過を知っている方は「遅い」とのことでしたけれど、やっぱり家庭ごみを減ら</p>

	<p>すという部分ではぜひ5ページの158グラムからですね、令和10年度150グラム、8グラム削減ということですか。</p> <p>この部分なんですけど、家庭のごみを減らして食品ロスを無くしていこうという部分で、細かい点なのかもしれませんが、例えば何か特徴的なデータはあるんですか。</p> <p>海藻類というあまりピンとこなかったのですが、野菜というと葉物や何かそういう数値的なものはないでしょうか。何か傾向的に多かったものとか、果物だと、おそらく皮だとか、この頃はシャインマスカットなどは皮ごと食べられるなど、農業分野の方でも一生懸命頑張っている部分もございますので。</p> <p>これなんか野菜かなんかでちょっとヒントだとか、こういう料理の方法だと、さしあたって8グラムぐらい減らせるとか、なんかそういうアドバイスとか何かあれば、ちょっと私農業団体の者ですから、何かをちょっと今後の活動の中にそういう傾向と対策みたいなものがあれば、もしかしたら他の見通しとかなんかそういうところでやっているところがあるかもしれませんけれど、優良事例を含めて、今後の計画の中に、4月から6月でデータの整理だとか、先行自治体事例調査とかですね、計画があるような、そういうものでいろんな情報を活用できればと思います。</p> <p>食品は毎日のことですので、そういう部分でも何か特徴的なものがありましたら、教えていただければと思います。</p> <p>今日でなくても結構ですので、よろしくお願いします。</p>
事務局 (田中)	<p>そうですね。食品ロスのモニター調査のより細かいところについては、今後ご提供できるように改めて整理の方はさせていただこうかなと思います。</p>
油原委員	<p>海藻ってどういうものなんだろうかね。</p>
事務局 (加藤)	<p>モニター調査の記録では、昆布の佃煮ですとか、ひじきの煮物なんかが結果として出ておりました。作りすぎなどが主な要因のようです。</p>
油原委員	<p>ありがとうございます。そういったものが直接残ってしまっているということなんです。参考になりました。ありがとうございます。</p>
高口会長	<p>はい、ありがとうございます。その他、よろしいでしょうか。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>では以上で議事2を終了し、議事3その他に移ります。</p>
山崎委員	<p>3番のその他で1点よろしいでしょうか。</p>
高口会長	<p>はい。どうぞ。</p>
山崎委員	<p>私、今年からこちらの委員に参加しまして、第1回目の7月24日に開かれました審議会の議題の中で、ごみ処理広域化に向けた取り組みというこ</p>

	<p>とで、近隣の市町村とあわせて清掃工場をどうするかというような議題があったと思いますが、このときも多数意見が委員の皆様からも出たことと思います。</p> <p>実際にはですね、市の方向性とかその辺もまだ決まっていないというお話もありましたので、今の進捗状況について、できればご報告いただけると聞きたいと思いますのでよろしく願います。</p>
事務局 (小杉)	<p>それでは私の方からごみ処理の広域化についてご報告いたします。</p> <p>第1回目の審議会、7月と、2回目11月のときにも少し広域化の進捗についてお話をしたところではございますが、最初から申しますと、近隣7市町村でごみ処理の広域化、ごみ処理施設の集約化を今検討しております。</p> <p>この7市町村の中で、龍ヶ崎地方塵芥処理組合、龍ヶ崎市・利根町・河内町のごみ処理施設であるクリーンプラザ・龍ですね。</p> <p>それと阿見町が単独で運営している阿見町霞クリーンセンター、あと牛久市が単独で運営しております牛久市クリーンセンター。</p> <p>江戸崎地方衛生土木組合の稲敷市と美浦村が運営しております施設、合わせて4つの施設がございます。</p> <p>この4つの施設を茨城県の計画によって1つに集約したらどうかという案が提示されまして、この7市町村で検討して進めております。</p> <p>令和7年3月に基礎調査報告書というものが出てきまして、コンサルに委託したんですが、その中で7市町村の4つの施設を、できるだけ早く1つに集約した方がいいという案が提示されまして、それをもって7市町村で検討を進めておりました。</p> <p>前回ご説明したときに7市町村で早期に1つに集約する方向については、ご報告はしたんですが、その後7市町村で検討した結果、江戸崎地方衛生土木組合が令和4年に新施設が竣工しておりまして、その他の3つの施設が25年以上経っておりまして老朽化が進んでおり、集約化のタイミングがちょっとずれているのではないかとということが話になりまして、江戸崎地方衛生土木組合が30年間は利用できるということですので、令和34年ごろまでは使って、その後に合流したらどうかというお話になりまして、3つの施設を1つに集約する方向で今検討しております。</p> <p>前回のときに、令和8年1月から2月ごろに基本合意を締結するのではないかとこのお話をご報告はさせていただいたんですが、まだ基本合意には至っておりませんで、検討が継続されているところでございます。現状はそのような状況でございます。</p>
山崎委員	ありがとうございます。
高口会長	その他いかがでしょうか。

<p>披田委員</p>	<p>7月のときにご説明があって、国の補助の要件などを見るときに、ごみの有料化の問題、それからプラスチックのマテリアルリサイクルとしての分別の処理の導入という2つの具体的な要件を環境省が示していて、それを取り入れなければだめなわけではないけど、取り入れることによって国の補助負担を増やしてもらえるとということで、それは考えるつもりだということだったかと思うんですね。</p> <p>この問題についてお伺いしたいんですが、新しい焼却処理にまとめる、その結果としてこの2つが要件となってくる。</p> <p>特にこういう経済情勢の中で、ますます市民の負担が増えるかなということで、短絡的と言ったわけではないんですが直接的なこともあって、市民の中でも、ある程度その情報があったりもしているんですね。</p> <p>私自身は今のところ、ごみ有料化については基本的に必要だということで、昔の審議会でもそういう答申を上げていて、ただ経済情勢なり何なりを見据えた上でないと軽々しくはやれないということで、政策としては凍結に今は至っているんですが、だから今後どうするかですね。</p> <p>要するにやっぱり合意が得られないと、どれもできないと思うんですが、ただやっぱり生ごみなんかのことも含めて総合的にやっぱり減量させていって、やっぱり次世代に、いろんなことが、単に費用が節約できるだけじゃなくて、資源も活用できるような廃棄物行政であるために、この審議会も存在しているという、そういう目的でやると思うんですね。</p> <p>そのための有効な手段の組み合わせで、かつそれを市民が理解して一緒になってしていくということが大切だと思います。</p> <p>その時にやっぱり今、焼却施設も全くゼロにはできないだろうし、ただ非焼却的な施設の活用も場合によっては考えていくことも必要だと思います。</p> <p>そういうことをまず中心に考えていく中で、プラスチックの問題とそれからごみ有料化について、一応龍ヶ崎としてはどう考えようとしているのか、また現時点では全くゼロベースの話なのかということについてお伺いしたいと思います。</p> <p>1つだけ言えばいろんなことが重なってしまう前から、そういうことも含めて、いろんな議論が必要だということです。</p> <p>仮に有料化しないのであれば、じゃあ他の手段としてどうするんだということをやっぱり市民も交えてやることを早い段階からしておかないと、その具体的な話になったときに、やるやらないとかということで強引にしてやるんでは、やっぱりいろんな意味で合意・協力が得られないという意味で、老婆心ながらやっぱり心配しているんですが、いかがでしょうか。</p>
<p>事務局 (小杉)</p>	<p>まず、プラスチック製品の分別収集が今お話ありましたように、これは法律でもう決まっておりますので、どの市町村もやらなくちゃいけないことですね。</p>

	<p>広域ごみ処理施設を集約する枠組みが決まってから動くのは動くんですけど、収集運搬などについてはその枠組みを待たずにすぐにもでも検討に入らないといけないと思っておりますので、スピード感を持って進めていくことでよろしいかと思えます。</p> <p>家庭系ごみの有料化ですが、今委員おっしゃられたように、この審議会でも答申を出されて、一度ダメになったとお話がありましたが、ごみの減量をするには欠かせないものだと私は思っております。</p> <p>田崎委員からもありましたように、多く出す人はそれなりの負担をしないといけない。あと、削減してくれた方には付加価値をつけるみたいな、そういう施策をもって今後進めていければと思っているんです。</p> <p>あと、有料化をすることによって、委員が言われていたのは、何かチラシか何かが出回っていて、それをご覧になっているのかと思うんですが、交付金をいっぱいもらうために有料化するんだみたいな感じを持たれることもあるようですが、有料化に対しては、今何も決まったことはございませんで、市民に負担をかけてしまうと思っておりますので、慎重に進めてまいりたいと思えます。</p>
<p>披田委員</p>	<p>この程度で終わりにしたいと思えますが、検討していきます、慎重にいきますというだけでは、このタイムスケジュールの問題からいってもそうですし、やっぱり市民と一緒に考えるということにならないと思うんですよ。</p> <p>行政として、そういう言葉で慎重にとかということとはわからないわけではないんですけどもね。</p> <p>だけど逆に、例えば特にプラスチックなんかについては、検討を始めていくなら例えば令和8年度の重点取り組みについてという中に、一言も触れていないわけですよ。</p> <p>具体的に決まっていないから、取り組み事業としては出ていないということはそうかもしれませんが、検討をどうするのか。</p> <p>一方ではこの食品ロス削減というのもそれなりに意味があることで、これはやるけれども、その陰でどうなるかということをやったり検討しているならしている、それについていろんな意見を求めるだとかいうようなことを含めてもやっぱり市民を巻き込んでやっていかなければ、いろんなことを決めてしまった段階ではどうにもならない。</p> <p>ごみ有料化については若干その受け止めが違うかもしれないけど、やっぱり同じ部分があるんですよ。</p> <p>だから、やらないと決定するわけにもいかないわけですよ。やりますともまだ決まっていないから。</p> <p>だからそれをどう出していくのかということはあるんですが、繰り返し言わせていただいてきたんですが、やっぱりごみの問題についても総合的に、いかに減量し、そのことが結果として、単なるお金の問題じゃなし</p>

	<p>に、やっぱり次世代に向かって資源なり、いろんなことを出していくというこの廃棄物減量等推進というお題目の意味を受けて、いろんなことで、しかもそれをやっぱり市民ベースでやらなきゃならないのが、この審議会なので。</p> <p>そういう意味で言えばやっぱり慎重だ慎重だと言っているだけではあれで、逆に大反発を食らうかもしれないし、こういう経済情勢だから難しいことは難しいけれども、でもやっぱりその公平性のことであるとか、今まですでにやってきて、いろんな一長一短あるようなことをやっぱり小出しに説明をしていくとか、いろんなことをやっぱりしなきゃしょうがないんじゃないかと思うんですけどね。以上です。</p>
高口会長	はい。では、その他何かございますでしょうか。
事務局 (小杉)	<p>1点補足がございます。</p> <p>披田委員の方から先ほど1つ目の議題のときに、環境フェアでリユース品の配布というのがあったんですが、環境フェアが終わってしまったというお話がありました。</p> <p>龍ヶ崎地方塵芥処理組合では独自にリユース品の無償配布は継続して行っておりますので、付け加えさせていただきます。年に1回集まったときに、そういった形で継続して実施しております。</p>
披田委員	何かの機会とかやっぱり知らせなければ、広まっていけないと思いますが、周知の関係はどうなっていますか。
事務局 (小杉)	りゅうほー等に掲載して周知を図っております。
披田委員	わかりました。
高口会長	はい。では、その他として事務連絡に移ります。
事務局 (竹中)	<p>事務局よりご案内させていただきます。</p> <p>来年度令和8年度の審議会の大まかな予定ですが、年3回ほど開催の方を予定させていただいております。</p> <p>今現時点で大まかにではございますが、7月、9月、12月を1つの目安として開催したいなというふうに考えております。</p> <p>また先ほど披田委員の方からも一部ご紹介がありましたように、私ども生活環境課が4月1日付で市役所組織の変更がございまして、廃棄物対策課という名称に変更となります。</p> <p>今まで生活環境課の中に廃棄物対策グループというグループがあったわけですが、そこが独立して、生活環境課から廃棄物対策課として分離するような形の変更が4月1日から実施いたしますので、来年度こちらからのご案内は、生活環境課ではなく、廃棄物対策課からご連絡していくという形</p>

	になりますので、ご承知おきいただければと思います。
高口会長	それでは以上をもちまして議事を終了させていただきます。進行を事務局にお返しします。
事務局 (竹中)	<p>それでは、長時間にわたりましてご審議いただき、どうもありがとうございます。</p> <p>次回令和8年度第1回審議会の開催につきましては、会長と事務局との間で調整の上、改めて皆様にお知らせいたします。</p> <p>会議録は事務局で作成し、確認などをしていただきますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>また、委員報酬につきましては、ご提出いただきました口座にお振り込みいたします。</p> <p>振り込み口座等に変更がある方に関しましては、この後ご提出いただきますようお願いいたします。</p> <p>なおわかりづらい点などございましたら事務局にお声掛けください。</p> <p>それでは以上をもちまして、令和7年度第3回龍ヶ崎市廃棄物減量等推進審議会を閉会いたします。</p> <p>皆様、大変お疲れさまでした。</p>
	<p>令和8年3月24日に行なわれた会議の内容については、上記のとおり相違ありません。</p> <p style="text-align: center;">令和8年 月 日</p> <p style="text-align: right;">議事録署名人 _____</p> <p style="text-align: right;">議事録署名人 _____</p>